

講師紹介

～ うめだ・あけぼの学園（東京都足立区） 言語聴覚士 高倉めぐみ先生 ～

社会福祉法人からしだね 発達支援センターうめだ・あけぼの学園（東京都足立区）で、言語聴覚士として主に0歳から就学前の知的障害児の支援を行っています。

言語の問題だけでなく、家族支援・就学支援・地域支援など他職種とチームアプローチを組み、実践しています。

主に、知的障害児の聴覚管理・食支援・コミュニケーション支援・発達支援などの論文や発表を関係学会等で行っています。

地域の保育園や幼稚園や特別支援学校などでアセスメントを行い地域との連携も行っています。

～ 玉名市開業 浦田章子先生 ～

昭和27年現浦田医院の前身である三井医院の長女として生まれ、玉名町小・玉名中学校とこの地で伸び伸びと育ちました。当時、済々廣高校のバンカラ気風に憧れて、とつても怖かった三井の父に済々廣へ行かせて欲しいと頼んだけど、「勉強は学校でするものではない、自分でするもんだ。」と一蹴され、今でも「行きたかったなあ」と思っているけれども、そのお蔭で、昭和47年県立玉名高校を卒業して、順天堂大学医学部医学科を卒業しています。大学6年生の時に、引き合わせてくださる方があり、当時の東京大学物療内科に所属していた現浦田医院院長と見合いをし、翌年9月に結婚、主人の米国 NIH への留学をはさんで、一男二女を授かって、まあ、色々ありましたが、今に到っています。

私は当時の医局に在って初めて妊娠して医局に残った医局員。大学院に行きたいと申し出たら「男性に譲ってください」といわれた時代でした。そんなこんなの中でも、米国での出産・子育てを経験した事や、我が子ながらユニークすぎる3人の子供を育てさせて貰った事は、その後のものの見方において、一般人としても医療人としても、大きな影響を賦与された良い機会だったと感謝しています。

帰国後、昭和60年4月より順天堂大学付属順天堂大学浦安病院助手として喘息・アレルギー外来を担当。平成4年4月三井一浦田医院勤務。同年4月より玉名保健所（現・有明保健所）及び玉名郡市の乳幼児健診並びに学校医、園医活動に従事。

平成18年9月より、「子ども・若者とメディアを考える会」を、玉名市保健センター・九州看護福祉大学・養護教諭・看護師・保育師・助産師有志と立ち上げる事となり、まだまだ稚拙ながら「現代日本」の子供達の現状について考える活動を継続中です。

この数年、外来でお会いする家族の在り様が、形態ばかりでなく、その心の繋がりも含めて変わってきている様子が急激に目立ち始めている事、そういう家庭で育てられている幼い子供達の生育環境は必ずしも良好とはいえない事に気づかざるを得なくなってきた事、また何より、一生懸命に育てている筈の子ども達が親の発したメッセージを必ずしもその期待通りに受け止めていてはくれないのだと感じる事態が目立つようになった事などから、「子育ては決してひとつの家族だけでするものではない」という極当たり前の確信に改めて突き当たる事となりました。この事がこのところの私の色々な活動の出発点となっています。

今回提供する色々な情報が、皆さんの”心“か”気持ち“か、少なくとも”耳“には届く話になればよいと祈念しています。（了）

〈資格〉 日本小児科学会認定専門医
日本小児科医会認定こどものこころ相談医
日本医師会認定産業医
日本小児アレルギー学会員
日本小児感染免疫学会員等

